

朝から演劇



わたしが演出した舞台に出演していたとある若い役者さんは、稽古中から本番中にかけて早朝のカフェで上演される芝居にも出演していて、その話をちよっとだけ聞いた。そういう芝居を「オハゲキ」と呼ぶらしい。そんな形態の芝居がこの世にあることをわたしは初めて知った。

わたしが関わるような芝居の興行は昔からだいたい夜に行われる。時間は公演団体によってまちまちだがだいたい七時くらい。そして、土曜・日曜だけ昼公演がある。なぜそういう時間帯に公演が行われるかと言うと、主催者側が芝居を見に来る観客たちの生活のサイクルを考慮しているからである。平日の昼間に公演しても「仕事だから行けない」と言われることは目に見えているからである。つまり、芝居の興行は「観客の仕事が終わってから」行われるのが常である。その常識を覆し、「仕事へ行く前に演劇を見せる!」とは革命的な発想である。しかし、いったい朝から何を見せるのか?

朝から「児童虐待が原因で起こった連続殺人事件」の話は見たくない。朝から「不倫関係にある男女のドロドロの愛憎劇」は見たくない。食べ物と一緒に朝から焼肉やステーキは食べたくない。ご飯に味噌汁、トーストに珈琲のようなもの。自然と内容は軽いものになるように思う。「同僚男性に告白するかどうか迷っている女子社員が愛の告白を決断する」というような。

どちらにせよ、「朝から演劇」という発想をしたプロデューサーの頭の柔軟性には恐れ入る。実験演劇の旗手 寺山修司すら「朝から演劇」という発想はしなかったのだから。そもそも寺山修司は朝に物凄く弱そうな人に見える。

高橋いさを

〈劇団シヨーマ主宰 劇作・演出家〉